

前例のないニッチな市場で 価値を創造

アイシーエクスプレス株式会社

1964（昭和39）年の東京オリンピック。開催期間中、競技会場からテレビ局や新聞社にニュース素材を運ぶバイク輸送が活躍した。プレスライダーと呼ばれる運び屋の総数はおよそ150台。このバイク輸送を担当したが、60年に創業したアイ・イー・シー（現アイシーエクスプレス）だ。24時間・365日稼働のバイク輸送という創業者・黒木寛至氏が打ち出したアイデアで、新聞、テレビ局各社と次々に契約。事故や災害といったニュースの現場から、いち早くメディアの手にフィルムなどの素材を運んだ。

オリンピックで一気に売上を伸ばすも、以降は赤字続き。

もともと羽田空港の通関、輸送業務で起業した黒木氏は、次に羽田から全国に手荷物を運ぶ来日外国人旅行者向けのサービスを着想、このとき4輪トラック輸送に乗り出したが、こちらもドルショックによる外国人客の減少で長くは続かなかった。一方で、同サービスで配備したパネル仕様のトラックによる有名歌手の全国ツアー楽器輸送車契約を獲得。これを契機に、同社は来日アーティストらの機材輸送を一手に引き受ける企業に成長、リスクが高い海外アーティスト相手の商売で、多くの経験値と問題解決能力を高め、他社を圧倒する力を見せている。

◎モノを運ぶだけではない

いずれも前例のないニッチな市場である。それが創業以来変わらない同社のフィールド。前例がなくとも断らずに、考え、実行に移す。単にモノを運ぶだけなら他社と変わらない。マラソン中継用のバイク機材もその一つ。長年中継取材を受注してきたが、カメラの手ブレを嫌う放送局の要望に応え、特別仕様の3輪バイクを特注した。最近では、大学病院などを対象にした医療機器の輸送でも実績を増やしているが、ここでも車両自体を改良するなどの独創的な取り



マラソン中継用の3輪バイクも特注

●社是・理念

「創意・工夫・実行」…時代のニーズを見つけ、そこに付加価値をプラスし、失敗を恐れず挑戦していく精神



代表取締役社長
渡邊 一隆 氏

● 長寿の秘訣

創業以来、数々の苦難を経験しながらも、時代にマッチした挑戦を繰り出し新ビジネスで難局を超えてきた。まさに運送会社というよりも、顧客に問題解決の具体策を示せる企画会社との色彩が強い。4代目の渡邊社長は、創業者やOB株主から全株式を持ち株会社で買い取る経営と資本の一致に成功。一段の挑戦を可能にする舞台は整った。



多彩な輸送手段で顧客に応える

● 会社概要

設立：1960（昭和35）年7月

所在地：東京都大田区昭和島2-4-1

事業内容：トラック・バイク輸送、航空便輸送、特殊輸送サービス、保管
貨物、プリンティングサービス

資本金：6,800万円

社員数：169名（2018年12月現在）

URL：<https://www.iec-exp.co.jp/>



ズラリと並ぶ高機能プリンターが成長の原動力

組みが見られる。

こうした取り組みとともに、同社成長の原動力となってきたのが、プリント事業だ。大手コンビニエンスストアから受け取ったデータを処理し、自社プリンターで出力した帳票や明細表などの紙を迅速にお客様へ配達する事業を1986年にスタート。2004年には富士ゼロックスと業務委託契約を締結し、企業内プリントを外部委託に切り替える今日の流れを作った。「情報処理能力と高機能プリンター、それに輸送部門を持つているから発注してもらえ。データを受け取れば翌朝には複数のオフィスへ紙を配達できるので、顧客は100社近くになる」（渡邊一隆社長）という。

2輪・4輪から国内航空輸送まで、多彩な輸送手段とともに、情報処理・プリント業務を兼ね備えたアイシーエクスプレス。前例にとられない挑戦がこれからも続く。